

言心先生の中国便り

不読書の民族

最近、あるインド人のエンジニアが書いた「大きな憂慮―不読書の中国人」という本は、中国のネット上でベストセラーになった。彼が、自分の中国の生活経験に基づいて書いた本である。

彼がフランクフルトから上海に行く飛行機内で、中国人以外の人はみな本を読んでいた。対照的に機内の中国人はiPadでゲームをしたり、映画を見ていたが、本を読んでいた人は一人もいなかった。また、フランスから来た友人は、どうして中国人は電車を待つ間、携帯を利用して大声で対話したり、ゲームで時間を潰したりするが、静かに本を読む人はいないのかと彼に聞いた。彼自身もこの

疑問をずっと持っているから、友人の観察に同意した。

ある中国の一万数千人が住んでいる町には、按摩店、麻雀店が数十軒とネットサロンが5〜6軒あるが、図書館と本屋が殆どない。ある資料によると、中国人一人は平均で年間0.7冊の本を読み、対照的に韓国人は7冊、日本人は40冊、ロシア人は55冊である。中国は平均して約46万人が一軒の図書館を所有していることになるが、筆者が在住の豊島区の人口は約30万で、図書館が八軒もある。

なぜ中国人は本を読まないか。四つの原因が挙げられる。第一に、国民の文化素質が低い。第二に、幼い時に本を読む習慣を養成しなかった。第三に、受験教育のせいで、子供が受験関係以外の本を読む余裕が出来なかった。第四に、良い本が少なくなった。

当然、現代社会は昔より情

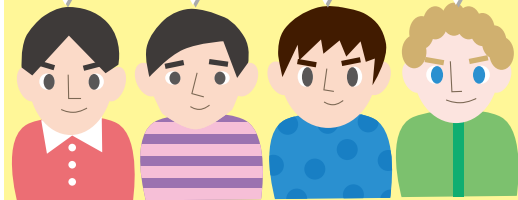
報の獲得経路が多様化した。しかし、読書はテレビ、ラジオより、人間の思考能力を育てられる。沢山の本を読み、良く物事を考える民族は、一番洗脳し難い民族である。

前世紀の六十年代、前代未聞の民族洗脳運動―「文化大革命」が中国で勃発した。全体的・独裁的な国体という以外に、思考能力の乏しさによる民度の低下が最も重要な原因として挙げられると思う。

今の中国の相当の若者は、パソコン・スマートフォンに夢中であるが、真面目に本を読み、真剣に社会の事を考える余裕は無さそうである。一部分の人は自分以外の事に無関心で、もう一部分の人は、過激な破壊行為を躊躇せずに敢行する。一昨年に中国で発生した反日運動における、勝手に人を殴り、商店・車を焼くという無法行為は、中国の文明意識があまり進化していない証明だと思う。

年間で読む本の数

(1人あたり)

中国
0.7冊韓国
7冊日本
40冊ロシア
55冊

読書は、人間の思考能力を育てる…

